

新聞報道等による淀川流域委員会に対する意見

私は、枚方市内に住む一市民です。幾紙かの新聞を読みました。淀川流域委員会からは

① 河川環境に関して、従来の発想から一步も抜け出していない。

② ダム建設は、治水対策に果たす役割は小さい。

③ 説明責任を果たしていない。

との淀川流域委員会の意見のようですが、① について、整備計画原案では現時点で必要と思われるものを記述しており、将来新たな知見や検討結果により内容を追加するとあり、又、点検にあたっては流域委員会の意見を聴くともあります。

淀川流域委員会において、河川環境に関して、とりわけ「治水との調和」「ダム環境との調和」について、深い議論があったのでしょうか。私は、むしろ「ダムは造らない」という前提の上に立った環境の議論と理解しておりますが……。河川環境に対して河川管理者は「従来の発想から一步も抜け出していない」とはどの点を指すのでしょうか。私は、整備計画の対象期間概ね20～30年としている河川環境の創出については、十分配慮した原案となっていると思いますが……。

② について、治水施設でダムは、洪水に対して効果的な施設ではないかと思います。

1. 大量の洪水を溜めることができること。

2. ダムは上流から河口まで、洪水時は水位を下げるができること。

などから、大戸川ダム、川上ダムは建設すべきと考えるが……。

③ について、6年間という長い期間（時間と云うべきか）と、多くの経費と労力をかけて河川管理者は、淀川流域委員会・住民へ十分な説明を行ってきたと思いますが……。

以上

淀川流域委員会庶務 殿

穂 波 宣 員